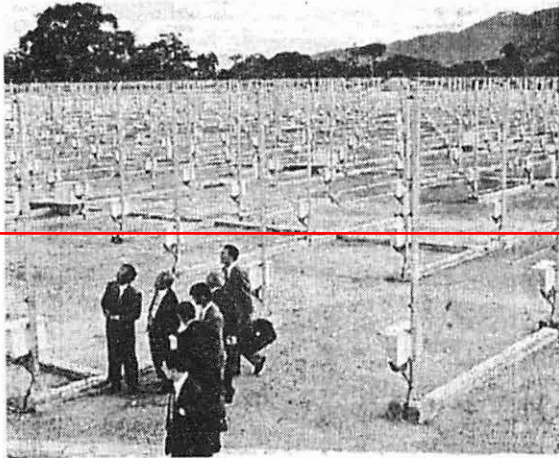


異常気象解明の目

京大 スマトラ島にレーダー

京都大宇宙電波科学研究所の大規模の出発点で、見られていたが、メカニクスセンター（宇治市）が、気候変動など重要な役割を果たす。インドネシア一帯での大気観測は行われていたが、赤道大気レーダー（EARTH）がスマトラ島に完成。六月からの本格稼働を前に現地時間の二十三日正午、最初の電波を照射する。地表から数十キロ離れた成層圏まで大気の動きを観測でき、エルニーニョ現象をはじめ地球規模の異常気象や気候変動を解明する切り札として期待されている。

完成したEARTHは、直径百十メートルの円形の土地に高さ三・五メートルのアンテナを五百六十本設置している。同センターの「MU（中高度大気観測）レーダー」（滋賀県信楽町）の独自技術を活用。電波を断続的に照射し、反射してきた電波で大気の動きを観測する。赤道は地球全体を巡る大気帯の中心で、赤道大気レーダー同センター提供。



開所した大気観測レーダー施設を視察する日本側関係者＝共同

インドネシアに大型のレーダー

京大が開所式

「プキティンギ（インドネシア）26日共同」エルニーニョ現象などの気候変動を解明するため京大宇宙電波科学研究所センター（センター長・深尾昌一郎教授）が建設した大気観測レーダー施設の開所式が二十六日、赤道直下のインドネシア西スマトラ州プキティンギ近郊で行われた。赤道地域の同種施設としては最大規模。レーダーは、標高約九百メートルの高地にある直径約百十メートルの円形の敷地に立ち並ぶ五百六十本のアンテナから超短波を照射し、高度二十キロまでの大気乱流を観測。開所式には長尾真・京大学長や竹内行夫駐インドネシア大使、インドネシアのヒカム研究・技術担当國務相ら来賓や地元住民ら約三百人が出席した。長尾学長は同国航空宇宙庁などの協力を感謝を表明した。

63. 京都新聞 2001(平成13)年3月23日

65. 日本経済新聞 2001(平成13)年6月27日

"EYE" FOR ABNORMAL WEATHER CLARIFICATION

Kyoto Univ. Build a radar in Sumatra

Kyoto Newspaper, March 23, 2001.

The world largest Equatorial Atmosphere Radar (EAR) constructed by Kyoto Univ. in collaboration with the Indonesian Government is completed. It is expected to clarify global scale abnormal weathers and climate change.

The EAR is designed by applying the MU radar unique technologies. It consists of 560 antennas of 3.5 m height, build in a 110 m diameter circular land. It illuminates radio-waves intermittently, and observes the atmospheric movement using the reflected radio-waves.

The equatorial region generates the global-scale atmospheric motion and has significant influences to the global weather and climate changes. The Indonesian region has attracted attention for El Nino phenomenon, but no atmospheric observation was performed to clarify the mechanism.



The Equatorial Atmosphere Radar constructed in Sumatra, Indonesia